

図書館通信

最上校図書委員会 No.20 12月11日

Merry Xmas!

今年度のクリスマスツリーは生徒会執行部と図書委員会のコラボ作品です。願い事や欲しい物などを生徒の皆さんに書いてもらい、11月27日に点灯式を行いました。どうぞ、終業式までクリスマス気分を味わい、楽しんでください。



長期貸出のお知らせ

12月18日(月)～1月9日(火)まで、図書館から本を5冊借りることができます。

冬季休業中に読む本をぜひ借りてください。

冬季休業：12月25日(月)～1月8日(月)

冊数：2冊 → 5冊

※今、借りている本を一度返却してください。

冬季休業に本を読もう！

年末年始、お出かけも良いですが、
一人静かに、本でも読みませんか？
最新刊の本が続々と入荷しています！

『星を編む』 凧良ゆう著

「汝、星のごとく」で語りきれなかった愛の物語。瀬戸内の島で出会った權と暁海。二人を支える教師・北原が秘めた過去。彼が病院で話しかけられた教え子の菜々が抱えていた問題とは？

『わたしに会いたい』 西加奈子著

コロナ禍以前の2019年より、自身の乳がん発覚から治療を行った22年にかけて発表された7編と、書き下ろし1編を含む、全8編。

『椿の恋文』 小川糸著

「いつか」ではなく、今、大切な人に伝えたい。家事と育児に奮闘中の鳩子が、いよいよ代書屋を再開します。代書屋としても、母親としても、少し成長した鳩子に会いにぜひご来店ください。

『カーテンコール』 筒井康隆著

著者曰く「これがおそらくわが最後の作品集になるだろう」(編集者「信じていません!」)。筒井文学の主要人物が打ち揃う「プレイバック」をはじめ、巨匠がこれまで蓄積した^{きりとう}技術と思索の全てを注いだ、痙攣的笑い、恐怖とドタバタ、胸えぐる感涙、いつかの夢のごとき抒情などが横溢する圧倒的傑作掌篇小説集爆誕！

『いまこそガーシュウィン』 中山七里著

アメリカで指折りのピアニスト、エドワードは、大統領選挙の影響で人種差別が激化し、変貌しつつある国を憂い、音楽で何かできないか模索していた。音楽の殿堂、カーネギーホールで流れるのは、憎しみ合う血か、感動の涙か。

『青春をクビになって』 額賀滯著

夢の諦め方は、誰も教えてくれない。「雇止め」という冷たい現実を前に、研究を愛するポスドクが下した決断とは。青春の^{しま}終い方。社会に横たわる痛切な苦みを描く。



冬季休業に最新刊を読もう！



『窓際のトットちゃん・続窓際のトットちゃん』 黒柳徹子著

国民的ベストセラー、42年ぶり、待望の続編！

世界中で愛されている、あのトットちゃんが帰ってくる！

泣いたり、笑ったり、トットの青春記。

『列』 中村文則著

「君だって、列に並びたいから、並んでたんだろ？」

ある動物の研究者である「私」はいつのまにか「列」に並んでいた。先が見えず、最後尾も見えない。だれもが互いを疑い、時に軽蔑し、羨んでいる。この現実生きる私達に救いは訪れるのだろうか。

『スピノザの診察室』 夏川草介著

雄町哲郎は京都の町中の地域病院で働く内科医である。三十代後半、最愛の妹が若くしてこの世を去り、一人残された甥の龍之介と暮らすためにその職を得たが、かつては大学病院で将来を嘱望された凄腕医師だった。哲郎の医師としての力量に惚れ込んでいた大学准教授の花垣は、愛弟子の南茉莉を研修と称して哲郎のもとに送り込むが。

『エヴァーグリーン・ゲーム』 石井仁蔵著

世界有数の頭脳スポーツであるチェスと出会い、その面白さに魅入られた4人の若者たち。64マスの盤上で、命を懸けた闘いが繰り広げられる。彼らは己の全てをかけて、チェスプレイヤー日本一を決めるチェスワングランプリに挑むことに。チェスと人生がドラマティックに交錯する、熱い感動のエンターテインメント作！

『君が手にするはずだった黄金について』 小川哲著

認められなくて、必死だったあいつを、お前は笑えるの？ 青山の占い師、80億円を動かすトレーダー、ロレックス・デイトナを巻く漫画家。著者自身を彷彿とさせる「僕」が、怪しげな人物たちと遭遇する連作短篇集。彼らはどこまで嘘をついているのか？

『777』 伊坂幸太郎著

ツキに見放されている殺し屋・七尾と呼ばれる彼が請け負ったのは、超高級ホテルの一室にプレゼントを届けるという、簡単かつ安全な仕事のはずだった。同じ頃、ホテルには驚異的な記憶力を備えた女性・紙野結花が身を潜めていた。彼女を狙って、非合法的裏の仕事を生業にする人間たちが集る。そのホテルには、物騒な奴らが群れをなす！

『シェニール織とか黄肉のメロンとか』 江國香織著

かつての「三人娘」が織りなす幸福な食卓と友情と人生に乾杯！作家の民子、自由人の理枝、主婦の早希。そして彼女たちをとりまく人々の楽しく切実な日常を濃やかに描く、愛おしさに満ちた物語。

『あなたが誰かを殺した』 東野圭吾著

閑静な別荘地で起きた連続殺人事件。愛する家族が奪われたのは偶然か、必然か。残された人々は真相を知るため「検証会」に集う。そこに現れたのは、長期休暇中の刑事・加賀恭一郎。

私たちが待ち受けていたのは、想像もしない運命だった。

『隣人を疑うなかれ』 織守きょうや著

自宅マンションに殺人犯が住んでいる？隣人の失踪をきっかけに不穏な疑念を抱いた主婦の今立晶は、弟とともに住人たちを調べることに。死体はない、証拠もない、だけど不安が拭えない。ある夜、帰宅途中の晶を尾けてきた黒パーカの男は誰なのか？平凡な日常に生じた一点の黒い染みが、じわじわと心をかき乱す。

『存在のすべてを』 塩田武士著

平成3年に神奈川県下で発生した二児同時誘拐事件から30年。当時警察担当だった記者の門田は、旧知の刑事の死をきっかけに、誘拐事件の被害男児の今を知る。彼は気鋭の画家として、脚光を浴びていた。

本事件最大の謎異様な展開を辿った事件の真実を求め、取材を重ねた結果、ある写真家の存在に行き当たる。

『ヒロイン』 桜木紫乃著

世間を震撼させた白昼のテロ事件から、17年。名を変え他人になりすまし、無実の彼女はなぜ逃げたのか？流れ着いた地で彼女が見つけた本当の罪とはいったい何だったのか？

